

図録  
東京電機大学90年  
1907→1997



学校法人 東京電機大学

Be civil to all …… 総ての人に礼儀正しく  
 Serviceable to many …… 多くの人に奉仕し  
 Familiar with few …… 僅かな人と親しく  
 Friend to one …… 1人を真の友とし  
 Enemy to none …… 1人の敵も持たない

by Benjamin Franklin

初代学長 丹羽保次郎「お別れ講義」の中の“座右の銘”より引用

●主な内容

- 創立90周年記念式典・祝賀会
- キャンパス現況
- 創立者と建学の精神
- 電機学校の変遷
- 高等学校の変遷
- 大学（大学院を含む）の変遷
- 短期大学の概況
- 大学付置機関 総合研究所等のあゆみ
- 超電導応用研究所・建設技術研究所等の現況
- 総合メディアセンターのあゆみ
- 東京電機大学所蔵 特別コレクション・展示品
- 出版局の活動
- 校友会・同窓会の現況

★資料

- 東京電機大学組織図・沿革略図
- 法人及び法人設置の各学校・研究所の変遷図
- 法人設置の学校別卒業生数グラフ
- 東京電機大学・同短期大学 歴代役職者一覧略年表

「学園小史」刊行について

# 学園創立記念式典・祝賀会



創立25周年記念式典 昭8.10.11.  
於 日比谷公会堂



創立25周年記念祝賀会 於 東洋軒



創立50周年記念式典 昭32.11.18. 於 東京体育館

創立75周年記念祝賀会 於 東京プリンスホテル 鳳凰の間



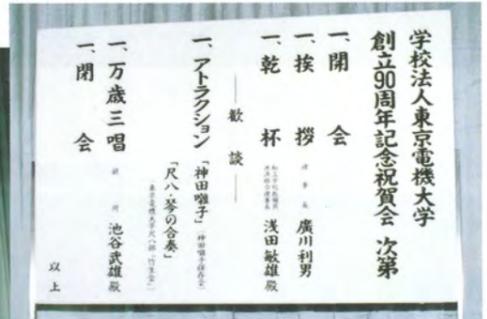
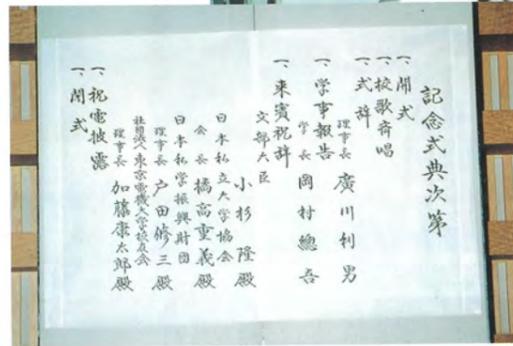
創立75周年記念式典 昭57.9.11. 於 東京プリンスホテル

# 創立90周年記念式典・祝賀会

**記念式典** 学園創立90周年記念式典は、創立記念日の平成9年9月11日（1997年）に東京国際フォーラムホールAにおいて、文部大臣をはじめ多くの来賓、教職員、校友、学生・生徒2,700余名が出席して挙行された。

**記念講演** 式典に引き続き、同ホールAにおいて、秋山豊寛氏（日本人初の宇宙飛行士）を講師に迎え、「宇宙から見た美しい星・地球」と題した講演が行われた。講演は宇宙の限らないロマンと地球の神秘について触れ、参加した中学・高校生をはじめ聴衆に夢と感動を与えた。

**記念祝賀会** 式典および講演会終了後、同会場のホールBにおいて記念祝賀会が催され、はじめに廣川理事長より挨拶があり、浅田敏雄私立学校教職員共済組合長の音頭で乾杯を行い祝宴に移った。参加者が1,200余名に達し、極めて盛会であった。（90年史より抜粋）



(神田ばやし)



式典当日配布の記念品



神田キャンパス (工学研究科, 工学部, 短期大学)



鳩山キャンパス (理工学研究科, 理工学部)



千葉ニュータウンキャンパス (工学部第一部1年次生)



小金井キャンパス (中学校・高等学校)



# 創立者と建学の精神



創立者 廣田 精一

略歴：(明4~昭6) 廣島縣福山市に出生。  
 明治29年東京帝國大學工科大学卒業、高田商會入社、在職のまま獨逸シーメンス・ハルス電氣會社入社、のち歐米諸國を視察して帰國。  
 明治40年扇本眞吉と共に私立電機學校創立。大正5年組織を財團法人に改め、総務理事に就任。大正10年、神戸高等工業學校の創立に際し校長(勅任官)を拜命、同校発展の基礎を築いた。



創立者 扇本 眞吉

略歴：(明8~昭17) 岐阜縣高山町に出生。  
 明治35年東京帝國大學工科大学卒業。獨逸シーメンス・ハルス電氣會社、深川電燈株式會社、江ノ島電氣鐵道株式會社等に奉職。  
 明治40年廣田精一と共に私立電機學校創立。初代校長として盡力。大正5年組織を財團法人に改め、財務理事に就任、専心その任に當たる。

## 創立趣意書

本校の精神とは何か。

結局世のため電機界のため、中流の電機技術者を養成し、工業教育の普及を計り、着實な足取りで、後世科學の總本山たらんとする本校の目的を、最も有効に達成しなければやまぬといふ精神である。  
 本校が初めから徒らに高きを望まなかつたことは、創立者の肺腑から出た本校の設立趣意書によって、十分に窺ひ知ることができる。  
 (昭和8.「電機學校二十五年史」より抜粋)

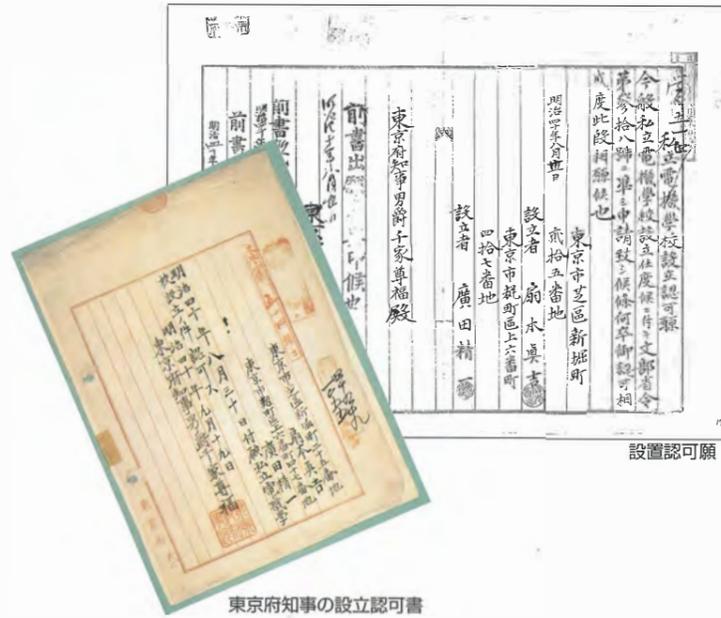
## 八十翁エジソンと語る



**巨人眼前に立つ** ドアを排してメドウ君が見えた。握手一番メドウ君曰く『エジソンに遇いたいのだろう、今日はよい時に來た、エジソンさん頗る御機嫌が好い。すぐ取次がう』と言はれるのである。僕の言はんとする所を全部先方が言はれたのである。エジソンの書齋へ來たまへと言ってドシドシ案内された。書齋で待つこと僅か1分、巨人エジソン今正に咫尺の前に立てり。大きな手を差し伸べて握手せらる。ああ、今僕は確かに世界の電氣王と握手したのである。  
**流石の廣田言ふ所を知らず** 自分の生涯で此感じをしたのは、畏多くも天皇陛下に單獨拝謁を仰付けられた瞬時にエジソン翁に御目にかつた時と唯2回のみである。エジソンは米人特有のビジネスライキに無難作に、直ちにペンを取りて翁の寫眞の上に『廣田精一氏に贈る、トマス・エー・エジソン』と謹嚴其物の態度で1字々々丁寧に書き畢って瞳を僕に向けられた。悲哉僕は胸一杯で何を語るべきか、言ふ所を知らなかつた。  
**5分にして翁と別る** エジソンの多忙は百も承知。長居は無用と重ねて握手して御別れた。後でラヂオの將來、就中電氣自動車即ち自分が半生の目的たる電氣自動車の將來は是非尋ねて見たかつた。フォードは内燃機の將來と電氣の關係をエジソンに聴き今日の富をなした。自分がなぜあの時に此問を發しなかつたかと思つたが、もう時既に遅しであつた。  
 (4. 10. 9) (昭和4年10月21日 電氣新報 第949號)



學校同士仲よく敷地校舎の受渡し 大正15.7.8



東京府知事の設立認可書

設置認可願

**中央大學跡譲受** 翌15年1月11日正式に公正契約を締結した。昭和2年4月8日に二丁目の校舎に移轉し、新學期から全部の授業を開始した。同時に新居を第一校舎、錦町三丁目の方を第二校舎と呼ぶことにした。

本校の發展史上、このときの移轉は可なり目ぼしい里程碑であつたに違ひない。これより先き、大正15年7月8日兩方の幹部が一夕帝國ホテルで歡談した。珍らしく本校の幹部、創立者、在京協議員の顔が揃つたからである。(電機學校二十五年史)

出席した本學関係者は、前列左端より創立者廣田精一、協議員山川義太郎、協議員淺野應輔、後列左より2人目監事佐久間正太郎、理事岩本雄藏、理事服部碩彦、創立者扇本眞吉、理事校長加藤静夫、一人置いて協議員立原任の9名であつた。



創立40周年記念式典に際して 創立者遺族の廣田、扇本両家に対し感謝状贈呈 昭22.11.24

## 学園創立90周年に想う

### 廣田 眞雄

私は製業企業から薬学部教授へと、祖父廣田精一とは全く違つた道を歩んできたつもりでいたが、本年4月から思いがけず、本學工学部物質工学科に非常勤講師として迎えていただいた。創立以来90年間にそれだけ本學は科学技術全域に活動を広げたわけである。歴代関係者のご苦勞に深い敬意を禁じ得ない。朝、本館入り口で扇本眞吉先生と祖父の胸像を眺め、午後再び立ち止まることを何回か繰り返して、面白いことに気づいた。扇本先生は常に変わらず穏やかなお顔でおられるが、祖父の朝の表情は厳しく、午後は優しいのである。

### 扇本 幹子

創立90周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。90年という歳月を思うに、まだ近代日本の創世期という時代の先人たちの志の高さ、開拓精神、先見性などにあらためて感動を憶える次第です。私事ですが、12歳の時祖父が亡くなり、長命であつた祖母は祖父を忍びながら、『電機學校』と呼ばれていた創立当時の苦勞話を語ってくれた事を思い出します。皆様には今後とも科学を見つめる厳しい目と、文化を創造する深い心で人々の幸せの為に貢献されることを切にお願い申し上げます。東京電機大学の發展を心からお祈り申し上げます。